

2022.9.10 日中関係学会：創立30周年記念シンポジウム基調報告

日中関係学会30年の歩み

～多くの方々に支えられて～

日中関係学会監事 藤村幸義

日中関係学会の“生みの親”は誰？

学会創設の
3年前

1989年初め
北京で「水交会」
スタート

「水交会」のメンバーが駐在の任期を終えて帰国し、1992年に東京で旗揚げしたのが、日中関係学会（当初は日中関係史学会）。



藤村幸義
日経新聞北京特派員

川西重忠
三洋電機北京支店長





会長: 中江要介元中国大使

1992年9月 発足当時の 豪華なメンバー

当日の写真
見つからず

顧問



小川平四郎 初代中国大使



鹿取泰衛 元中国大使



陳舜臣 作家



永井道雄 国際文化会館理事長



鈴木淑夫 野村総合研究所理事長



竹内実 立命館大学教授

理事



宮崎勇 元経済企画庁長官



田中明彦 東京大学教授

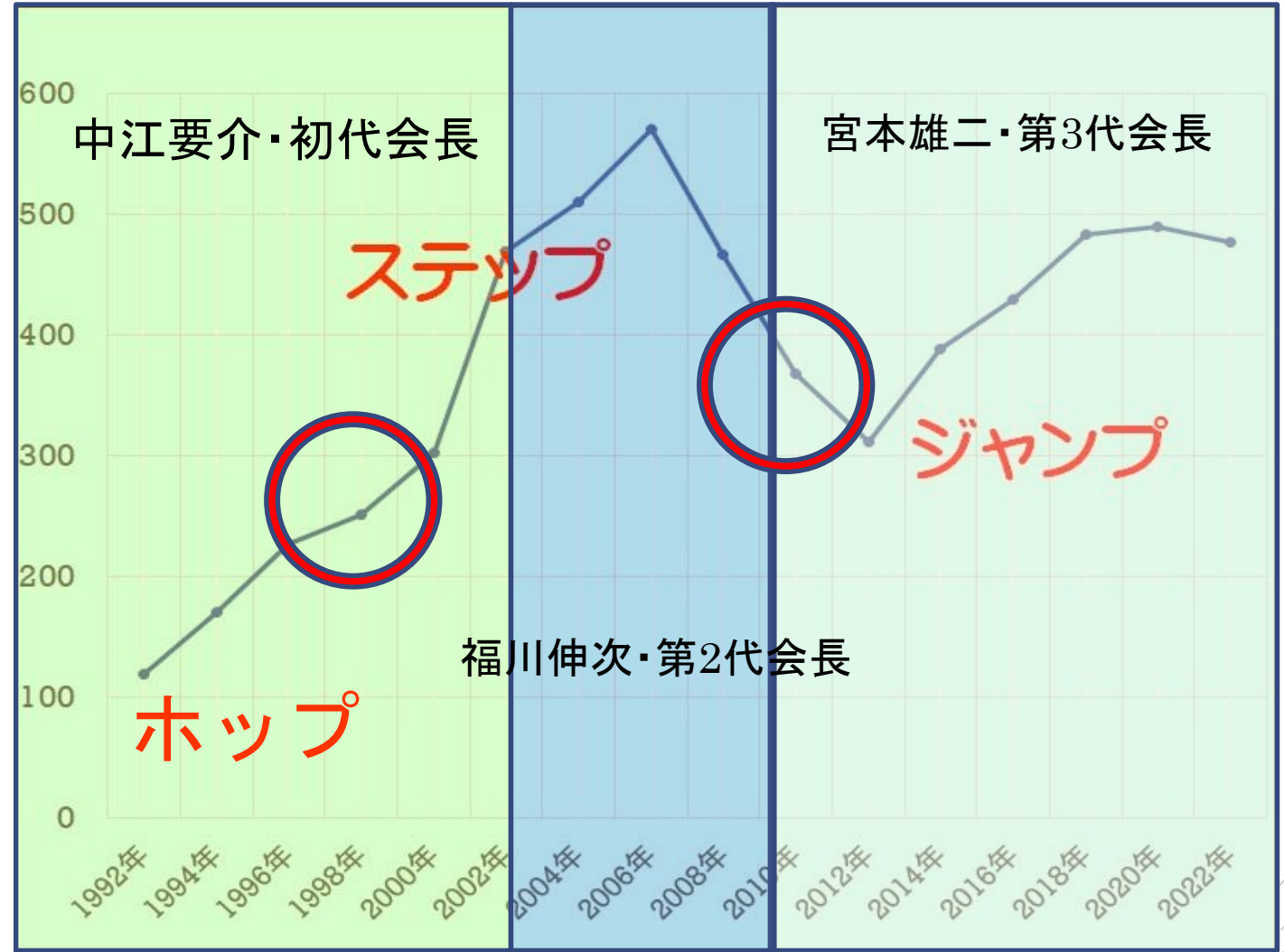


鮫島敬治 日経新聞初代北京特派員

会員数推移

それから30年...

3段飛びで
発展
2回の危機乗り越えて



なぜここまで
発展できたのか？

地方支部との連携

特に若者を巻き込む

- ①学会の役割の明確化
- ②事務局体制の確立
- ③会員の幅を広げる
- ④情報発信の強化

ホームページの作成
出版活動

キャッチフレーズ⁵

①学会の役割の 明確化

キャッチフレーズ

1992～2004年
初代会長
中江要介氏

日中友好を
うたわない

初代会長は中江要介・元中国大使。外交のお仕事の合間にバレエの台本も書かれるという「らしくない」大使に支えられ、学会発展の基礎を固めることができた。2004年までの12年間。



6

newsletter創刊号(1993年3月) 中江さんのあいさつ文

「当会は『日中友好』をうたわない。それには訳がある。当会は日中友好のためのものではなく、日中関係のためにあるものだからである。どのような日中関係が構築されるかは、われわれ一人一人の肩にかかっている。われわれの求めるものは、広く、深いのである」。

日中関係

キャッチフレーズ
作成

日本日中関係学会とは？

21世紀の日中関係を考えるオープンフォーラム

* 誰でも参加できます

学者、ビジネス、マスコミ、政治家、公務員、一般市民、学生、主婦など幅広い方々の参加をお待ちしています

* 自由に発言できます

党派やイデオロギーにこだわりません。建設的なご意見であれば、多いに歓迎します

* 中国の幅広い人々と交流していきます

特定の組織や団体などにはこだわりません。出来るだけ多くの人々と率直に意見を交換していきます

2004～2010年
第2代会長
福川伸次氏



8
視野を広く保ち、中国側研究者とのネットワークを拡げ、**実証と論理を大切**にして、日中間の理解を深化させる。

中江精神を
継承



発展著しい中国の現状を、日本はどこまで正確につかんでいるだろうか。我々は**しっかりと中国の現状を日本に知らせ**、日本の進む道を誤らせないようにしなければならない

2010年～
第3代会長
宮本雄二氏

②事務局体制の 確立

1998年
第一回目の危機到来

内山書店の三浦氏にまかせっきり

- * 事務局を4人体制に刷新
- * 事務局も内山書店⇒中国研究所

* 事務局担当

佐藤保(総括)
丹藤佳紀(会計)
川西重忠(企画・地方)
藤村幸義(会報・広報)

- * 現在の規約もこの時に全面手直し
佐藤保先生が原案作り



北海道:高井潔司
郎

九州:立石揚志

東海:川村範行

関西:青木俊一¹⁰



北海道支部 九州支部 設立

全国5支部体制へ
会員、一時は600人近くまで

●北海道支部 2000.12~2008.3

●九州支部2001.3~2011.7

7年余り

10年余り

再び3支部体制へ
会員も半分近くに急減

2010.10
宮本新会長選出
を機に一新



事務局
再構築

11人の侍

5支部体制の崩壊
川西氏にまかせっきり

2008～2009年
第二回目の危機到来

解散を考えたことも

事務局メンバー、一挙に増やす

副会長：江越眞、藤村幸義

理事：江原規由、杉本勝則、高久保豊、田島純一、
田中修、塚越敏彦、

評議員：内田葉子、高山勇一、高野知司

ボランティアなので、
各自が無理せずに行える範囲で
事務局活動の原則確立

③会員の幅を 広げる

宮本体制の下で
多くの新機軸
打ち出す

若者を呼び込む

2012年 宮本賞創設
2014年 青年交流部会発足

学生会員の割合
(2022.5現在)

16.3%

中国の研究者を呼び込む

2011～2014年 中日関係史学会との国際シンポ
2020年 国観智库とのWeb対話

旅行好きを呼び込む

2012年 「中国の“穴場”ツアー」執筆
2015/2016年 穴場ツアーで四川、湖北など視察

ビジネス関係者を呼び込む

2014年 中国ビジネス事情研究会発足
2019年 「飛躍するチャイナ・イノベーション」出版

最優秀賞

第一回: 謝宇飛 (日本大学)

第二回: 江暉 (東京大学)

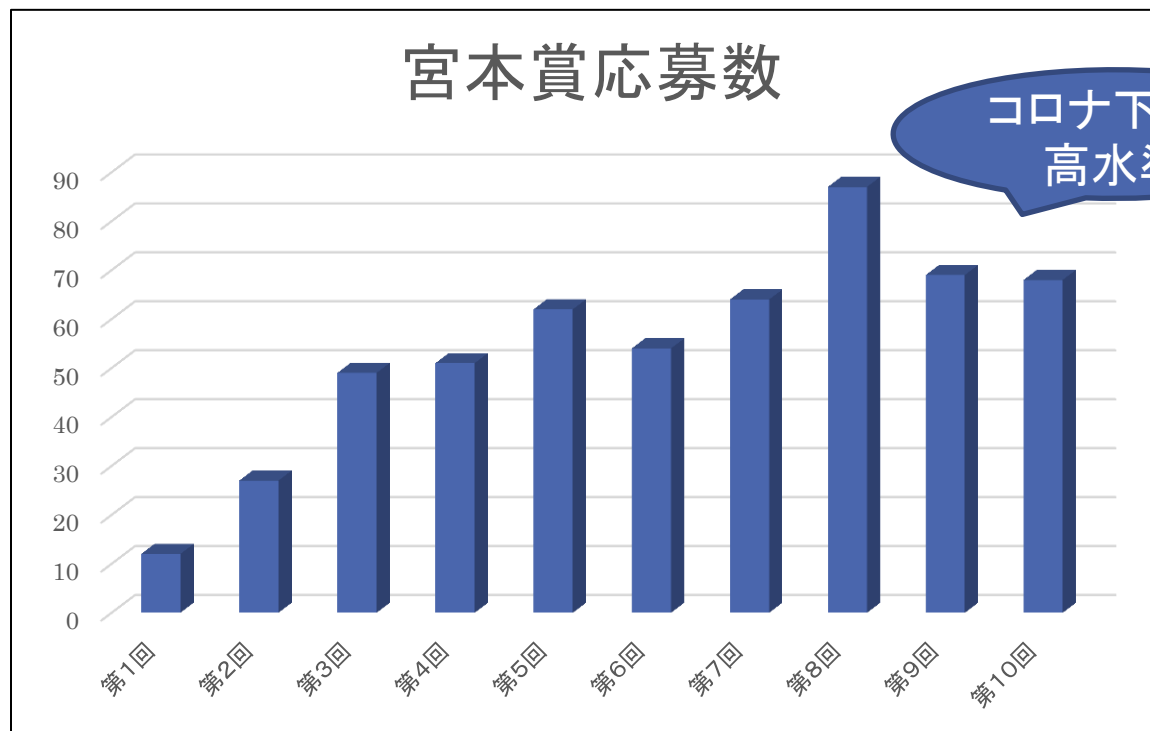


若者を呼び込む

2012 宮本賞スタート

第一回は12本の応募

宮本賞応募数



コロナ下でも
高水準

推薦委員の 皆さん

ネットワークを確立

<第9回宮本賞>

推薦・指導いただいた主な団体・各大学の先生・過去受賞者の皆様

<諸団体>

日本華人教授会議（代表：熊達雲）、NPO 中国留学生交流支援・立志会（理事長：王紅）、九州中国研究会（会長：田中旬一）、日中交流研究所（所長：段躍中）、日本科学協会（会長：高橋正征）

<日本の大学>

阿古智子（東京大学大学院教授）、王敏（前法政大学教授）、郝燕書（明治大学教授）、菅野真一郎（東京国際大学特任教授）、川村範行（名古屋外国語大学特任教授）、刈間文俊（東京大学名誉教授）、郝仁平（東洋大学教授）、金群（早稲田大学教授）、黃轟（神戸大学教授）、朱建榮（東洋学園大学教授）、周達生（立命館大学教授）、高久保豊（日本大学教授）、高原明生（東京大学教授）、張兵（山梨県立大学教授）、露口洋介（帝京大学教授）、范云涛（亜細亜大学教授）、寶鏡久俊（関西学院大学教授）、真家陽一（名古屋外国語大学教授）、蘇内正樹（敬愛大学経済学部中国ビジネス総合研究所）、結城佐織（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター講師）、熊達雲（山梨学院大学教授）、俞敏浩（名古屋商科大学准教授）、劉永鵬（東洋大学経営学部教授）

<中国の大学>

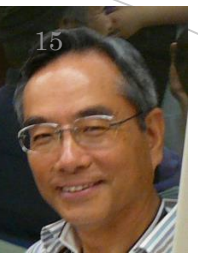
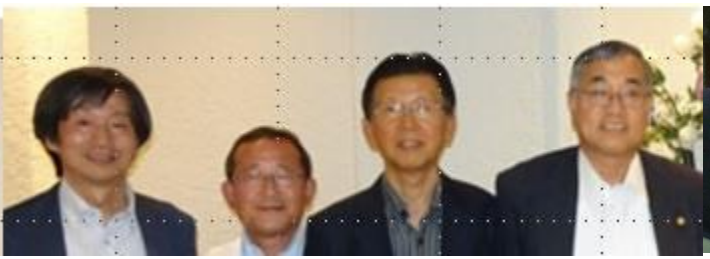
袁志海（西安外国語大学准教授）、王奕紅（南京大学教授）、王忻（杭州師範大学教授）、王建英（華東師範大学教授）、王書玮（北京科技大学教授）、王静波（浙江工業大学講師）、郭举昆（重慶師範大学教授）、郭連友（北京外国語大学教授）、夏晶（武漢大学准教授）、賈臨宇（浙江工商大学准教授）、姜弘（北京師範大学外文学院日文系准教授）、邢永鳳（山東大学教授・日本語学科主任）、高潔（上海外国語大学教授）、黃育紅（華東理工大学准教授）、孔繁志（首都師範大学教授）、吳英傑（對外經濟貿易大学外語学院准教授）、吳春燕（広東工業大学外国語学部准教授・副院長）、吳少華（西安外国語大学教授）、胡鳴（浙江省旅游職業学院教授）、吳琳（西安交通大学外国語学院日本語系専任講師）、蔡建国（同濟大学教授）、謝秦（上海外国語大学准教授）、肖霞（山東大学教授）、肖平（浙江工商大学教授）、蔣芳婧（天津外国語大学高級翻語院准教授）、盛文忠（上海外国語大学教授）、錢昕怡（中国人民大学准教授）、孫偉（首都師範大学准教授）、宋剛（北京外国語大学准教授）、孫若聖（東華大学准教授）、湯伊心（海南師範大学講師）、張艷萍（西北大学教授）、張彦麗（北京大学准教授）、張建（上海外国語大学日本文化經濟学院教授・副院長）、張厚泉（東華大学教授）、張平（四川大學准教授）、沈海濤（吉林大學國際政治研究所教授）、陳毅立（同濟大学准教授）、陳雪（華東理工大学講師）、陳多友（広東外語外貿大学教授）、丁紅衛（北京外国語大学北京日本学研究中心准教授）、程莉（武漢大学講師）、竇心浩（上海外国語大学教授）、鄧超群（湖南大学助教）、任川海（上海外国語大学准教授）、馬永平（西南民族大学教授・外国語学院副院長）、潘蕾（北京外国語大学北京日本学研究中心准教授）、母育新（西安外国語大学教授）、彭



高久保豊・日大教授



張厚泉・東華大学教授



若者シンポ関連
事務局総出で対応

表彰式



若者シンポ



浅草見学



卓球大会





2014.5
青年交流部会
部会長: 杉本勝則

●識者を呼んでの意見交換

谷野作太郎元中国大使と¹⁶



2020年以降

- 「第10回宮本賞受賞者」を囲んで語り合おう
- 「進路・学業・何でも相談会」

揚州でのシンポ

中国の研究者を
呼び込む

国際シンポ

中日関係史学会と共催
2011年6月 東京
2012年9月 北京
2013年9月 東京
2014年6月 揚州



宮本会長
右側は武寅中日関係史学会会長



江原規由・副会長

シンポ会場の前は反日デモ隊(向かい側は日本大使館)

2012年
北京で開催



2020年 国観智库とも



朱建榮さんの紹介

国観智库

中国で名の知れた独立系シンクタンク

2020年6月10日日中Web対話

[討論内容](#)

セッション「两会後の中国の経済政策と経済情勢の行方」

報告者：姚 洋 北京大学国家発展研究院院長

討論者：田中 修 財務省財務総合政策研究所特別研究官（中国研究交流顧問）、
ジェットロ・アジア経済研究所上席主任調査研究員、本学会理事

第2セッション「現下の日中経済協力の可能性と方策」

報告者：曹 遠征 元中国銀行主席エコノミスト、国務院新聞弁公室〈中国網〉コラムニスト

討論者：露口 洋介 帝京大学教授、元日本銀行北京事務所長、本学会評議員

総括

日本側：藤村幸義 日中関係学会監事、拓殖大学名誉教授

中国側：張 沱生 国観智库特別研究員、中国国際戦略研究基金会学術委員会主任

進行役

日本側：朱 建榮 東洋学園大学教授、本学会理事

中国側：張 沱生 国観智库特別研究員、中国国際戦略研究基金会学術委員会主任



旅行好きを呼び込む

穴場ツアー— 四川、湖北・河南



2015.9 四川



2016.10 湖北・河南

新しい
パワー
を注入



主幹事：平沢健一 幹事：菅野真一郎、江越眞、藤村幸義

ビジネス関係者を
呼び込む

2014年 中国ビジネス 事情研究会

本部研究会を補い
テーマを深掘り

- 第35回●「中国の金融リスク顕現化の兆しと政策対応」
- 第34回●「中国医療事情とインバウンド事業への期待」
- 第33回●「米中、アジアの動きを見据えた今後の日中関係について」
- 第32回●「青年人材に見る中国の動向と今後」
- 第31回●「中国新興企業の日本進出と日中連携の展望」
- 第30回●「新型コロナ感染症下での中国現地の最新情勢と展望—中米関係の行方と今後の日中ビジネスへの影響—」
- 第29回●「拡大する中国のデジタル・エコノミー」

④情報発信の強化

1999年
ホームページ作成

中国NOW
確かな中国情報を
満載

中国動向 2022年7月分

大久保勲

(要点)

- ・1-6月、**全国都市部新規増加就業**は654万人、6月の全国都市調査失業率は5.5%に下がった。うち、25歳から59歳までの就業主体人群の失業率は4.5%、基本的に1月並みである。1-6月、**全国住民一人当たり可処分所得**は前年同期比実際の増加は3%である。(7/16)
- ・1-6月に、規模以上の**ハイテク製造業増加値**は前年同期比9.6%増加し、ハイテク産業投資は20.2%増加した。**実物ネット商品小売り額**は5.6%増加し、社会消費品小売総額に占める比率は25.9%に達した。(7/16)
- ・現在、金融機関の加重平均**預金準備率**は8.1%であり、預金準備率を操作する余地はまだある。(7/17)
- ・今年1-5月、**中国が実際に使用した外資金額**は877.7億米ドルで、前年同期比22.6%増となった。(7/18)
- ・6月末現在、中国の**住民預金規模**は112.8兆元で、年初より10.3兆元増加し、前年同期比2.9兆元増加している。(7/19)
- ・2022年1月初めから7月12日まで、**人民元対米ドル相場**取引相場 5.4%下落して6.7345元、ユーロは11.9%下落、日本円16.1%下落、英ポンド12.6%下落。(7/20)
- ・5月末現在、**外資側による人民元債券保有比率**は2.63%で1月末よりも0.39%下落。(7/20)
- ・今年6月末現在、中国の**新エネルギー自動車保有量**は1001万台に達した。自動車総量の3.2%。新エネルギー自動車販売量は2012年12791台、2021年は352.1万台に増加。(7/21)
- ・今年上半期の**製造業貸し出し**は前年同期比1.6兆元増の3.3兆元増加した。うちハイテク製造業は前年同期比28.9%増加した。(7/22)

出版活動盛んに

宮本賞受賞論文集 VOL.1～VOL.8

これまでに 100 名以上の受賞者の優れた論文を紹介

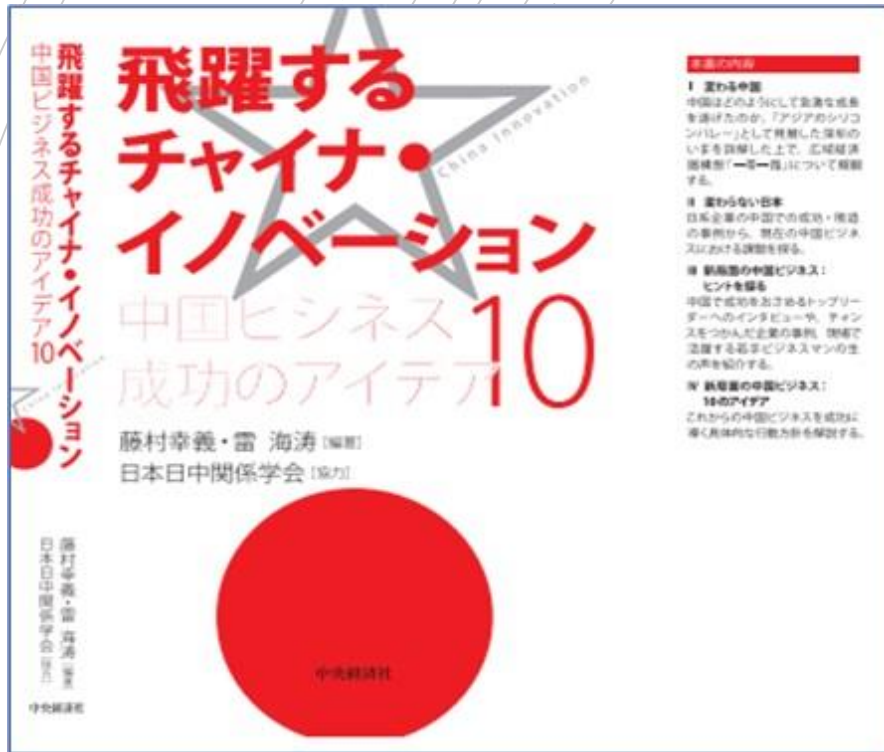


日本僑報社：段躍中



中国ビジネス事情研究会

6人の会員が討議を重ねて一冊の本に



日中関係学会・中国ビジネス事情研究会のメンバー

<執筆者>

藤村幸義

拓殖大学名誉教授、元日本経済新聞論説委員

雷海濤

桜美林大学教授、元東芝中国室長

平沢健一

G&Cビジネス代表、アジア立志塾代表、元日本ビクター理事

江越眞

監査法人アヴァンティアシニアアドバイザー、元監査法人トーマツ代表参与

菅野真一郎

東京国際大学客員教授、元日本興業銀行取締役中国委員会委員長

小山雅久

三菱商事地域総括部グローバル調査チーム



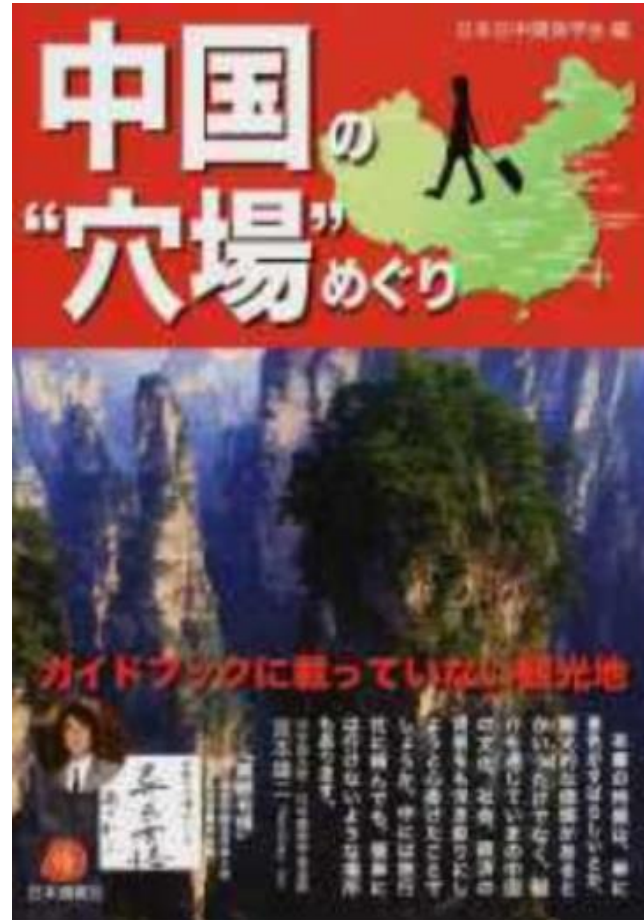
(左から藤村、雷、平沢、江越、菅野、小山)

販売は目標400冊だったが、
実際には1000冊超えて重版に

“穴場”30カ所 会員19人で紹介



玉龍雪山



まずフジサンケイ・ビジネスアイ紙で、2012年1月29日付けから連載。
加筆して日本僑報社から出版。
一時はベストセラーにもランクイン。

●歴史(16)

ホロンバイル/渤海国/司馬遷の故郷・
韓城/広府城/山東省威海/清明上河図/
仏教寺院/上海バンド/龐統の墓/孫臏
の過ごした街/磁器口/曾国藩/禹王/福
建土楼/北京の胡同

●自然(6)

カラクリ湖/黄果樹瀑布/玉龍雪山/メコ
ン川上流/硅化木園/張家界

●生活・ビジネス(8)

青島ビール/満州里/油滴茶碗の街/中
国のデトロイト/切手市場/四川大地震
跡/上海万博跡地/長寿の里/防川



コロナに負けず
ZOOMを活用

構造的な課題もあるが・・・
宮本賞の日本人学生応募が少ない
メディアへの露出が少ない
加えて台湾情勢の悪化など



- ①学会の役割の明確化
- ②事務局体制の確立
- ③多くの会員を多角的に呼び込む
- ④情報発信の強化

4原則忘れずに、新たな飛躍を目指して